

<平成 26 年度秋季大会ミニシンポジウム>

クルマエビ栽培漁業の今後を考える

日時・場所：平成 26 年 9 月 19 日（金）9：00～12：00・（大会実施委員会にて記入します）

企画責任者：原田 誠（愛知県水産課）・菅谷琢磨（水研セ瀬水研）・奥村卓二（水研セ増養殖研）

- | | | |
|-------------|------------------------------------|------------------|
| 9:00～ 9:10 | 開会の挨拶 | 奥村卓二（水研セ増養殖研） |
| | | 座長 菅谷琢磨（水研セ瀬水研） |
| 9:10～ 9:35 | 1. 伊勢三河湾におけるクルマエビ漁業の現状と栽培漁業における問題点 | 原田 誠（愛知県水産課） |
| 9:35～10:00 | 2. 瀬戸内海におけるクルマエビ漁業の現状と栽培漁業における問題点 | 山本昌幸（香川水試） |
| 10:00～10:25 | 3. 有明海域におけるクルマエビ漁業の現状と栽培漁業における問題点 | 香崎 修（熊本水研） |
| 10:25～10:35 | 休 憩 | |
| | | 座長 原田 誠（愛知県水産課） |
| 10:35～11:00 | 4. 浜名湖におけるクルマエビ漁業の現状と栽培漁業における問題点 | 山内 悟（静岡水技） |
| 11:00～11:30 | 5. クルマエビ栽培漁業の発展と今後について | 伏見 浩（福山大内海研） |
| 11:30～11:50 | 総合討論 | 座長 奥村卓二（水研セ増養殖研） |
| 11:50～12:00 | 閉会の挨拶 | 原田 誠（愛知県水産課） |

企画の趣旨

栽培漁業は50年以上の歴史があり、クルマエビはその対象種として最も古い。しかし、近年は資源状況の悪化、漁業者の減少などにより漁獲量は低迷している。また、国の第6次栽培基本方針では、従来の一交代回収型の栽培漁業ではなく、再生産を確保

する資源造成型の栽培漁業を推進するよう求めている。本ミニシンポジウムでは、漁業と栽培漁業の現状と問題点を洗い出し、今後のクルマエビ栽培漁業のあり方について議論する。